

# 地質

- 仁万坂灘の珪化木 -



'98.8.4,yo

2005年12月7日

vol.7,No.4

志波靖磨

E-mail [yshiwa@f5.dion.ne.jp](mailto:yshiwa@f5.dion.ne.jp)

URL <http://www.f5.dion.ne.jp/~yshiwa/>

## もくじ

はじめに .....	3
[1]ルート .....	3
[2]風景 .....	3
(1) 道路から浜への入口 .....	3
写真-1(a). 火葬場入口の前方の風景 .....	3
写真-1(b). 火葬場入口 .....	3
写真-1(c). 仁万から来る道 .....	3
写真-1(d). 浜へ降りる道筋 .....	4
写真-1(e). 海が見えてくる .....	4
写真-2. 浜に出て海が広がる .....	4
(2) 浜の印象 .....	4
(3) 珪化木①へ .....	4
(4) もう一つの珪化木② .....	4
写真-3(a). 珪化木① .....	4
写真-3(b). 珪化木①からの南側の風景, 北側の風景 .....	4
写真-3(c). 珪化木①高温石英の結晶群 .....	4
写真-3(d). 珪化木①, 結晶がみえる .....	4
写真-3(e). 珪化木①, 石英の結晶 .....	4
写真-4(a). 珪化木② .....	6
写真-4(b). 珪化木② .....	6
写真-5. 白石の砂 .....	6
写真-6. 田尻の砂 .....	6
写真-4(c). 珪化木②から, 北側の展望 .....	7
図-1. 珪化木の場所 .....	7
写真-7. 空中写真による珪化木の場所 (昭和52年の写真) .....	8

# 仁万坂灘の珪化木

はじめに

仁摩町を流れる潮川の河口は坂灘と呼ばれその南側に位置する一帯松ヶ鼻までの間に、珪化木や炭化木がある。珪化木は、直径50～60cm、長さ5m程ある大きなものが2本あり、仁摩町指定の文化財になっている。

井上多津男：地質学会誌、vol.86,No12,783～797(1980)

”島根県中部 仁摩町地域の下部中新統”

によると、この一帯は、火山の噴火があったと報じている。立木性の化石であるといわれている。

珪化木は、図-1.の地図に示した△位置にあるが、ここは10年ほど前に一度行ったことがあったが、この珪化木について質問の電話が入り、確認のために今年(2005年)11月10日に行ってみた。

[1]ルート

図-1.に仁摩町を貫く国道9号の仁摩交差点からの行き道を示した。交差点から2km程のルートで、地図の○の位置から入っていく。通常は閉門している町火葬場の入口の右横の獣道から降りていく。ここは釣り客が良く通る道であり、足場はしっかりしている。

約220m程降りていくと砂浜にでる。ここは田尻と呼ばれている。

浜にでたところから、右へ200mくらい進むと一つ目の大きな珪化木があり、さらに30m行ったところに、もう一つの珪化木が横たわっている。

火葬場入口前の緯度(実測)

N 35° 08' 45.3"

E 132° 23' 33.7"

田尻海岸(実測)

N 35° 08' 46.0"

E 132° 23' 25.0"

珪化木①(実測)

N 35° 08' 51.7"

E 132° 23' 27.7"

珪化木②/珪化木①の北側(実測)

N 35° 08' 54.1"

E 132° 23' 28.0"

[2]風景

(1) 道路から浜への入口

国道9号仁万交差点から浜へ降りるところからの風景



写真-1(a). 火葬場入口の前方の風景



写真-1(b). 火葬場入口



写真-1(c). 仁万から来る道

景は、前方は、火山性のむき出した岩がきれいな景観を示している、写真-1 (a)。

入るすぐの道路側には、投棄された軽自動車が数年前からある、写真-1.(c)。あたかも、ここからが田尻浜へ入るところですよと言わんばかりである。

火葬場の入口の右側に細い道があるが、季節によっては、笹が道の発見を阻んでいるときもある



写真-1(d). 浜へ降りる道筋



写真-1(e). 海が見えてくる



写真-2. 浜に出て海が広がる

が、少し奥の方まで行くと、分かりやすい。道は、きちんと付いているので歩き始めると分かりやすい。

## (2) 浜の印象

浜に出ると、そこは”田尻”と呼ばれるところである、写真-2。海に向かって左は、白石、千畳敷がありさらに松ヶ鼻へと続く。右は、しらくずれ、ウソの岩、ひろでん、坂灘である。

田尻浜の砂は粗く、砂利も多く見られる浜である。鳴り砂となる感じではない。煮沸洗浄してみたがやはり鳴らない。粒度と成分の問題である。

## (3) 珪化木①へ

平らな岩盤が海に続いている。むかし来たときは、記憶では、珪化木の案内があったはずであるが見渡しても見つからなかった。帰りにその後が見つかったが、風雨にさらされ根元から腐りわずかな残木がコンクリートの面から少しだけ確認できた。

大きな茶色に変わったそれらしいものが見えてきた。近寄って観ると縦方向に木であるという様子がかがえた、写真-3(a)。写真 (写真-3(a)) でもわかるように、鋸で切ったような断面もあった。石になってしまったその一部を良く観察すると、写真-3(c)、黒っぽい結晶 (写真-3(d)) や四面体をした結晶 (写真-3(e)) がびっしりと生成されていた。これらの結晶は高圧の元ゆっくりと冷えながら生成していったと考えられ、興味あるものである。

写真-3(b)は、珪化木から観た北側の風景で、平らな岩床が横たわっている。浜田の豊ヶ浦千畳敷の小型版のようなものである。

## (4) もう一つの珪化木②

珪化木①からさらに50 m程北に進むと、少し海側に、珪化木①よりやや小降り珪化木②が海面から覗きだしている (写真-4(a))。

同じように焦げ茶色の石の塊になっているが、大

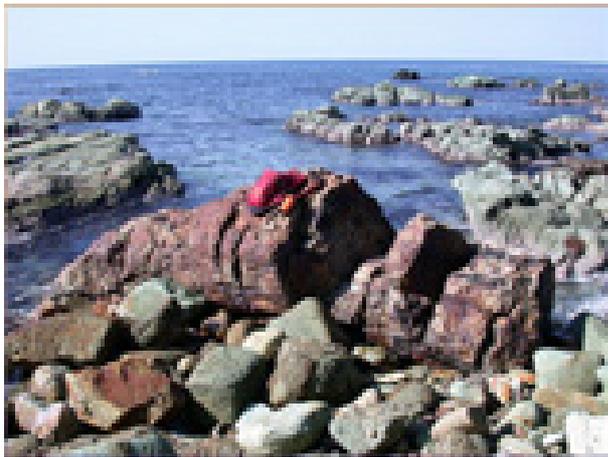


写真-3(a). 珪化木①

鋸で切ったような断面ができています。他の石で砕こうとしても、硬くて壊れない。

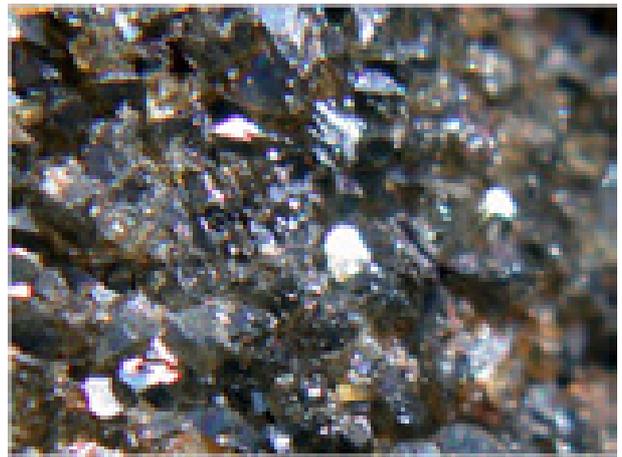


写真-3(d). 珪化木①、結晶がみえる

黒光りの結晶で、角閃石なのだろうか



写真-3(b). 珪化木①からの南側の風景

北側には平らな緑ぼい岩盤が海に広がっている。細かい筋が網の目のように走っている。さらに北側に50 m程行ったところにもう一本の珪化木がある。



北側の風景



写真-3(c). 珪化木①高温石英の結晶群

びっしりと固まっている石英の結晶



写真-3(e). 珪化木①、石英の結晶

高温石英というものか？三角四面体の錐をなしているが、水晶のような柱の部分は観察されない。きっと三角8面体を形成しているのであろう。



写真-4(a). 珪化木②



写真-4(b). 珪化木②

こちらはまさに木の様子を示している

きな幹から枝が伸びた木の様子がうかがえ、まさに、木の化石であるということがよく見て取れる(写真-4(b))。

写真-5,6は白石および田尻の砂の拡大写真である。白石は鳴り砂らしく見えるが、煮沸しても鳴らない。もちろん、田尻も鳴らない。

写真-7.に空中写真によるこの一帯のようすを示した。国土画像情報で、昭和52年のものであり、当時は火葬場がない。



写真-4(c). 珪化木②から、北側の展望



写真-5. 白石の砂

N 35° 08' 46.8"  
E132° 23' 16.7"



写真-6. 田尻の砂

N 35° 08' 46.0"  
E132° 23' 25.0"



図-1. 珪化木の場所



写真-7. 空中写真による珪化木の場所（昭和 52 年の写真） 1. 火葬場前、2. 田尻浜、3. 珪化木②

---

---

## 仁万坂灘の珪化木

所 属：(財) シルバーランド振興事業団  
仁摩サンドミュージアム

発行日：2005（平成17）年12月7日

発行社：グローバル粉体技術研究所  
志波靖磨

・神奈川県伊勢原市大住台1-7-6

電話 0463-93-1956

・島根県瀬摩郡仁摩町仁万461-1 メゾン栄411

E-mail [yshiwa@f5.dion.ne.jp](mailto:yshiwa@f5.dion.ne.jp)

URL <http://www.f5.dion.ne.jp/~yshiwa/>

---

---